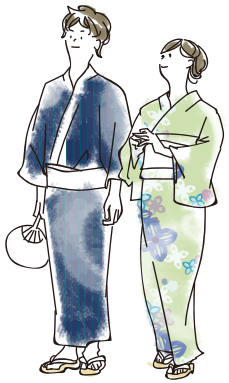
夏に間に合うように春先から取り掛かって、味に納得いくまで何度もやりなおして本日。

ピーコック®

Magazine for HATTORI City Boys & Girls

2021 JULY Issue.04

#テイクアウトはじめました



ピーコックマガジン　2021年7月号

発行：喫茶ピーコック　大阪府豊中市服部元町1-1-6　TEL：06-6864-0317

～店主が綴る、エッセイのようなもの～

くちびるに珈琲を。

the sun in mind,the coffee to lips.

ニューノーマルは突然に

「新しい生活様式」って言われてからずいぶん経つけど
何が新しくなったんだろう？って思ったんですよ
マスクだとか人との距離とか、手指の消毒とかテイクアウトとか
いろいろあるけど、それが新しい生活様式なのか？って言われると
うーん

そんなこと言いだしたら、スマホだってカーシェアだって
ホームベーカリーだってそうじゃんって思う
カセットテープがCDになった時も
冷たい便座がウォシュレットになった時も、時代の流れや人の感覚が
その状況に順次対応していっただけで
誰かが号令かけて便座が温かくなったわけじゃないんですよね
みんながそれぞれに選択肢の中から自分に合うものや
便利なものを選んでいって、ふと振り返った時に
「昔は〇〇だったなー」って思うだけのこと

若い子たちに「昔はA面B面っていうのがあって」なんて言っても
それを知らない世代には古くもないわけです
結局のところ新しいとか古いとか言ってるのは
狭間にいる人たちだけで、「今がすべて」なんですよ

「戻す・戻さない」もさ、戻せないんですよね、そんなものは

僕の好きな言葉

ぼくは自分が空でやれる事はなにか、やれない事はなにかってことを知りたいだけなんだ。ただそれだけのことさ。 —「かもめのジョナサン」から

リチャード・バック

本と音とお店のはなし。

今月の一冊

スロー・イズ・ビューティフル

辻　信一

まだ「ロハス」なんて言葉が出始める前、「スローライフ」や「丁寧な暮らし」をテーマにした雑誌を読み漁っていた頃に出会った本。あくせく生きるのに疲れた当時の僕がこの本の衝撃で国分寺の「カフェスロー」まで車をぶっ飛ばして行った22歳。世界の見方や自分の意識がぐっと変わったのはこの頃かもしれない。

今月の一曲

Summer Beauty 1990

フリッパーズギター

僕と同世代ならフラッシュバックする、”はしゃいで出掛けないしたぶんキスをする彼女もいない部屋で歯ブラシくわえながらオムレツ焼いてた僕”を全国に量産したであろうサマーアンセム。ボーダーといえばセントジェームス、夏といえばカメラトークでしょ。ひさびさにアルバム聴いたら、15歳くらい若返りましたよ。

僕らの町のお店

おうちのおそうじ 晴れぴか屋

☎ 090-4767-3174

喫茶ピーコックのキッチン回りのお掃除をお願いしている浅川さん、通称「オレンジ色の人」。お掃除が好きすぎて本業にしちゃったパターンの人で”好きこそものの上手なれ”をフルスイングで発揮してくれます。めちゃ丁寧な仕事とユニークなキャラクター、そして特技の手品披露も付いてきます。あと、自作のジャムを配り歩くジャムおじさんでもあります。

上芝英司｜1979年服部生まれ、喫茶ピーコック3代目店主。喫茶と文筆に勤しむA型乙女座ヒゲメガネ。企画や作文、図画工作が得意。

PEACOCK64

https://peacock64.com

PEACOCK64 服部

for HATTORI City Boys & Girls

いまの僕らにできること

表紙にもででんと書きましたが、ウチの喫茶店でもとうとうテイクアウトはじめました。時代の流れもあるし要望も多かったので春先から準備をしてたんだけど、今回すごくこだわった（苦労した）のは「容器や資材」なんです。20代の前半あたりから「スローライフ」とか「エコロジー」のようなものを少し意識するようになって〝興味あるジャンル〟くらいの距離感で暮らしてきたんだけど、2年くらい前にひょんなご縁で「あしたの暮らしとよなか」っていう団体さんと環境やエネルギーや人権をテーマにした映画上映会を開催していた時期があってね。そこで今でいうSDGsやロハスのようなことがもっと身近になったんですよ。ドキュメンタリー映画ってすごくて。

「コロナ禍でテイクアウト需要が増大」のニュースを見るたびに、ゴミやプラ容器も増えるよなぁとか思ってね。だから、ピーコックのテイクアウトはできるだけ工夫したり探し回ったりして「バガス（サトウキビが原料の紙容器）とバイオマスプラ（バイオマス資源が原料のプラスチック）」でできる限り揃えました。もちろん完全ではないし努力の余地はまだまだあるんだけど。経営の観点で見れば資材も経費だから限界もあるけど、時代もどんどん進んで昔よりももっと手に入れやすいし種類もたくさんあるんですよね。で、いろいろ見ているうちに「やってみるか！」と決めたんです。

あと、これはお勧めしたいのが「容器の持参」です。個人経営の小さな喫茶店だしさ、水筒とかお弁当箱とか鍋とかタッパーとかを持ってきてもらって「これに入れてください～！」っていうのが一番良い気がする。なんていうか、下町感がね。

環境にも経営にも優しいし、なによりもコミュニケーションが生まれるのが本当に良いことだなって思うんですよ。同じ町に住む人同士が融通しあうみたいなのってこれからはもっと必要だと思うし、そのキッカケになればいいな。

そんなわけなんで、「朝はサラリーマンがマイボトル、夕方には主婦が両手鍋を持参する」店を目指していきますよ。

いまの僕らにできること。

ピーコック SINCE 1964 | SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS